

# 無線 LAN の接続方法 Windows Vista 版

1. デスクトップの「スタート」メニューから「ネットワーク」をクリックし、ウィンドウ上部の「ネットワークと共有センター」をクリックする。
2. 次に、ウィンドウ左部の「ワイヤレスネットワークの管理」をクリックし、「追加」をクリックする。
3. 「ネットワークプロファイルを手動で作成します (M)」を選択する。
4. 追加するワイヤレスネットワークの情報を下のように設定する。

ネットワーク名 (E)	lounge
セキュリティの種類 (S)	802.1x

上記を入力・選択したら [次へ] をクリックする。



5. 「正常に lounge を追加しました」と表示されたら、[閉じる] をクリックする。
6. 「lounge」のアイコンが追加されるので、追加されたアイコンを選択し右クリックして [プロパティ] を選択する。
7. [セキュリティ] のタブでは、下のように設定する。

セキュリティの種類 (E)	802.1X
暗号化の種類 (N)	WEP
ネットワークの認証方法の選択 (O)	保護された EAP (PEAP)

[OK] はまだ押さず、[設定 (S)] をクリックする。

8. 7. の保護された EAP (PEAP) の [設定 (S)] で下のように設定する。

<input type="checkbox"/> [サーバーの証明書を検証する (V)]	※ チェックを外す
認証方法を選択する (S)	セキュリティで保護されたパスワード (EAP-MSCHAP v2)
[↑の構成 (C)]	<input type="checkbox"/> Windows のログオン名とパスワードを自動的に使う (A)
	※ チェックを外す

9. 以上を設定したら、順に [OK] ボタンをクリックしてウィンドウを閉じる。
10. 画面右下に「lounge への接続には追加の情報が必要です」の吹き出しが表示されたら、吹き出しをクリックする。  
「資格情報の入力」のウィンドウが表示されるので、ネットワーク ID とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。(ログオンドメインは空白のまま) 認証に成功すると、無線 AP に接続できる。
11. 無線 AP との接続が確立したら、総合メディア基盤センターの Web サイトにアクセスし、**ファイアウォールの認証画面**でネットワーク ID とパスワードを入力して、ログオンする。

※ここまでの手順で、インターネットが利用できるようになります。次回から 1～10 の設定作業は省略されますが、うまく接続できないときは設定を再確認してください。

12. 利用が終わったら 12. のファイアウォールの認証画面でログオフする。

※インターネットの利用については、大学内のルールに従って利用してください。

< 参考 >

Windows XP での接続法, info. Core PRESS 2007 年 4 月号 (No.7)

詳しい方法や、その他の OS を使った接続については <http://www.gipc.kanazawa-u.ac.jp/kains/wirelessLAN/> (総合メディア基盤センター Web サイト → KAINS → ネットワーク利用手引き → 無線 LAN システムについて) をご覧ください。



## 金沢大学 総合メディア基盤センター

Information Media Center of Kanazawa University

〒 920-1192 石川県金沢市角間町 TEL.076-234-6910 FAX.076-234-6918  
jimu@imc.kanazawa-u.ac.jp  
<http://www.gipc.kanazawa-u.ac.jp>

info. Core PRESS のバックナンバーは、総合メディア基盤センター Web サイト <http://www.gipc.kanazawa-u.ac.jp/publication/> からご覧いただけます。

# info. Core No. 08 PRESS

## 2007

# 8

August

いよいよ新システム運用開始！設定方法を紹介～

## Windows Vista 対応 無線 LAN 設定マニュアル

部門報告

アカンサスポータル説明会 / 講習会のお知らせ  
情報漏洩対策、大丈夫ですか？  
連載 (第 6 回) Excel からデータベースへ

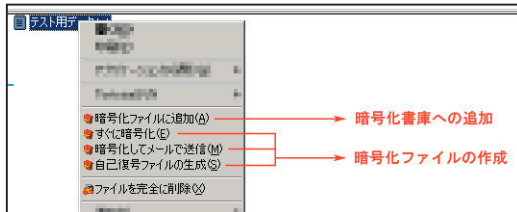
金沢大学総合メディア基盤センター  
情報誌

# 大丈夫ですか？

情報漏洩のニュースが後を絶たない昨今ですが、その一方で重要な情報をノートパソコン等で持ち歩く機会、フラッシュメモリやCD、DVD等のメディアで受け渡す機会、電子メール等ネットワーク経由でやり取りする機会は、ますます増えています。万が一の場合に備え、重要な情報が入ったファイルの暗号化等の情報漏洩対策が重要です。総合メディア基盤センターでは、ファイル暗号化ソフト「SecureBOX」を金沢大学教職員に対し無償提供しています。

## SecureBOX

SecureBOXは、富士通北陸システムズにより開発された、Windows用のファイル暗号化ソフトウェアです。インストールすると、ファイル選択時のマウス右ボタンによるプルダウンメニューに、下図の項目が追加されます。基本的な操作は、全てここから行えます。



SecureBOXで生成されるファイルには、「暗号化ファイル」と「暗号化書庫」の2種類があります。

**暗号化ファイル**は、ファイルやフォルダを暗号化したもので、暗号化の際に付けたパスワードを使って復号（暗号化を解除）することができます。

暗号化ファイルは2種類存在し、それぞれメニューから「すぐに暗号化」「自己復号ファイルの生成」を選択する事で生成できます。ひとつは拡張子が **.scb** のもので、これは復号に SecureBOX が必要です。もうひとつは「自己復号ファイル」で、これは拡張子が **.exe** であり、それ自身が実行可能な形式です。自己復号ファイルの場合、復号に SecureBOX は必要なく、ファイル自体を実行することで復号操作が可能です。SecureBOX を持っていない相手にデータを送る際には自己復号ファイルが便利ですが、その反面、一見ファイルの素性が分かりにくい・メールに添付した場合にウィルスと間違われやすい等の欠点がありますので御留意ください。

暗号化書庫は、複数のファイルを内包し、個別に出し入れが可能な暗号化ファイルです。暗号化書庫の操作は、「SecureBOX Archiver」を起動して行いますが、ファイルの書庫への追加についてはメニューから「暗号化ファイルへの追加」を選択することで可能です。他にもいくつかの機能がありますが、詳しくはオンラインマニュアルを参照するか、下記 URL の Web ページをご覧ください。SecureBOX のダウンロードも、ここから行えます\*。

SecureBOX v2.0 L20 ダウンロード  
 (総合メディア基盤センター Web サイト内)  
<https://www.ipc.kanazawa-u.ac.jp/SecureBOX/>

\*ライセンスの関係上、利用可能なのは本学教職員に限られます。ご了承ください。

# 情報教育部門

## アカンサスポータル説明会 / 講習会のお知らせ

昨年度から学習管理システム「アカンサスポータル」が本格的に稼動しています。本年度は全教職員の ID 登録がなされ、学部教育での全ての科目とその受講生が登録されていることをご存知ですか？アカンサスポータルには授業に役立つ便利な機能が備わっています。

- ネット経由での教材配信（予習、復習の促進）
  - ネット経由による課題やレポートの提出、返却およびその管理（集計負荷の軽減、提出した / しらないのトラブル減少、省資源）
  - オンラインアンケート、試験（集計負荷の軽減、省資源）
  - 学生の学習履歴、課題成績の記録（落ちこぼれ防止、学習促進、効果的な学習指導）
  - 掲示板での学生とのコミュニケーション（学生とのコミュニケーション、個人情報保護）
  - メッセージ機能（学生が読んだかどうかの確認可能）
- などなど

情報教育部門では、ICT 教育推進室と連携して、アカンサスポータルの使い方の説明会・講習会を計画しています。説明会・講習会は総合メディア基盤センターで開催する形式と、貴学部、学科へスタッフが向かいに行く形式が可能です。

ご希望の方は以下の宛先まで、ご希望の形式、日時などをご連絡ください。

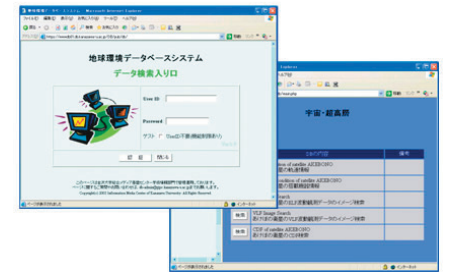
総合メディア基盤センター情報教育部門 / ICT 教育推進室  
 Tel 076-234-6913 / 076-264-6122 Fax 076-234-6918  
[e-support@el.kanazawa-u.ac.jp](mailto:e-support@el.kanazawa-u.ac.jp)

## データベースの活用例 その3

学術情報部門は、データベース（以下、DB と略します）を軸に「知的情報の蓄積・管理（DB 化）」、「知的情報の発信」、「情報処理・DB 技術の研究開発」など、学内の各種 DB 構築の技術支援や、統合 DB の企画・技術開発を進めています。

## 学術情報リポジトリ

学内には、各講座・研究室で蓄積されている実験・計測データや電子化して蓄積された写真・動画資料など、多種多様な学術資料が蓄積されています。これらの電子データを研究室や講座が個別に DB 化し公開するには、システム構築と運用に必要な技術力の養成・費用・人的資源の確保など大変な負担がかかります。また構築したシステムを学内外の関係者に周知し、利用促進をはかる上でも、個別に取り組んでいては非効率的です。当部門は、大学が一括して電子的な学術情報を管理・運用するための「学術情報リポジトリ」の構築と各講座・研究室からの技術的な相談に応じております。



## 今後の展望

総合大学である本学が所有する学術情報は非常に多種多様です。蓄積したデータを利活用するためには、個別事情に合わせた様々な設定・対策が必要です。当部門は個別事情を考慮しつつ、なるべく大学共通仕様で統合 DB システムが構築できることを目指して研究開発を進めております。DB と聞くとなんとなく敷居が高く、導入を躊躇している方もお気軽に御相談をお寄せください。現在はまだ実験的な運用ではありますが、御興味をお持ちの方はぜひ下記 URL もご覧ください。

<http://www-db.gipc.kanazawa-u.ac.jp/info/database.html>